

ねりまの文化財

1月26日は文化財防火デー

文化財を火災から守ろう！

例年1月26日は「文化財防火デー」です。毎年この日を中心として文化財を火災などの災害から守るため、全国各地で文化財防災訓練が行われます。

戦後の社会的混乱の中で、経済的基盤を失った文化財の所有者らがそれらを売却、あるいは放置するという事態が各地でおこりました。こうした状況の中で昭和24年(一九四九)1月26日、法隆寺金堂で失火があり世界最古の木造建築に描かれた白鳳時代(7世紀半ば)8世紀初め)の壁画が焼損してしまいました。また、翌年には金閣寺が火災に遭うなど、文化財の焼損が相次ぎました。この年、これらの事を契機として国は、文化財保護法を制定し、法隆寺金堂の修復が完了した昭和29年に、火災のあった1月26日を「文化

財防火デー」と定め、貴重な文化財が失われないように広く国民に協力をお願いする日としました。

文化財は、一度火災で焼損してしまうと再生することが出来ない貴重な国民的財産であり、かけがえのないものです。このような文化財を火災から守り、次世代に伝えていくためには、所有者、関係者のみならず文化財周辺の方々のご理解が必要です。文化財を火災から予防するよう平素から注意するなど皆様方のご協力をお願いします。

練馬区でも、練馬・光が丘・石神井の各消防署や地域の防災組織による防火訓練が防火デー前後にそれぞれの管内で行われます。その内容は、通報から始まり避難誘導、逃げ遅れた人の救助、文化財の搬出、そして一斉放水な



長命寺 昨年の一斉放水訓練風景

ど、実践しながらのものです。どなたでも自由に見学できますので、是非おこしください。なお場所と時間については、ねりま区報1月21日号をご覧ください。

練馬区教育委員会
生涯学習課
(文化財係)
Tel 3993-1111
〒176-8501
練馬区豊玉北6-12-1

* 問い合わせ先 文化財係

◇文化講演会◇

平城遷都一三〇〇年記念

「国宝 薬師寺展」

3月25日(火)～6月8日(日)に、

東京国立博物館「平成館」(上野公園)で開催される同展覧会に関連する講演会をNHKと共催します。参加者には展覧会の招待券1枚を差し上げます。

・日時 2月22日(金) 18時30分～

・場所 練馬公民館

・講師 法相宗大本山薬師寺執事長

・定員 村上太胤(むらかみ たいいん) 300名(抽選)

・申込方法

往復ハガキに①講演名②住所③氏名(ふりがな)④電話番号を記入の上、文化財係へお申ください。

・申込期間

1月21日～2月5日(必着。期間前は受付しておりません)

*必ずお一人様1通でお申ください。在勤・在学の方は勤務先や学校の住所も合わせてご記入ください。

なお、ねりま区報1月21日号でも募集いたします。



国宝 聖観音菩薩立像
7～8世紀 ©飛鳥園

東京文化財ウィーク2007を終えて

昨年10・11月に東京文化財ウィークの一環として、練馬区でも文化財に関連した事業を企画実施し、区内外の方々に参加・観覧していただきました。

文化財講座「豊島氏と石神井城」は、10月31日に練馬区役所本庁舎アトリウム棟階の多目的会議室で行いました。講師の齋藤慎一氏は、演題「石神井城からみる中世社会」として、中世から近世にかけて城郭の構造が大きく変遷していくなかで石神井城・練馬城がどのように位置づけられるか解説していただきました。講師の片桐昭彦は、演題「豊島氏の盛衰と享徳の乱」として近年の研究成果や新知見にふれながら豊島氏の動向を概説しました。

石神井城跡巡りと発掘パネル展は、11月3日に都立石神井公園内の石神井城跡およびその周辺で行いました。城跡巡りでは、愛宕山塁コースと三宝寺池南コースにわかれて各4回、解説を聴きながら歩き、発掘パネル展では、普段入ることのできない石神井城の主郭内で、発掘調査で出土した遺物や成果をパネルに展示しました。

郷土資料室の企画展「絵図にみる練馬」は10月27日から12月20日まで、

練馬区域のかつての村の絵図や、村民の生活に関わりの深かった用水、鷹場の絵図などを展示しました。

史跡散歩「わがまち再発見 ねりまの文化財めぐり」では、①光が丘駅出發コース(10月10日)、②池淵史跡公園出發コース(同24日)、③区立美術の森緑地出發コース(11月4日)、④本立寺出發コース(同8日)の4コースに分かれて区内を散策し、文化財に親しみました。

尾崎遺跡出土品解説会では、11月11日に春日小学校内展示室で、区の学芸員が都指定史跡の尾崎遺跡から出土した遺物について解説しました。



石神井城跡 発掘パネル展

「文化財説明板」は、ねりまの歴史と文化の案内役です

区内の文化財は平成19年3月現在で174件が登録されており(うち、指定文化財38件)、お寺の鐘や山門、神社の本殿、路傍の地蔵、庚申塔など、屋外にあり散歩しながら見学できるものが数多くあります。

そして、それらの文化財の近くには説明板を設置し、文化財のいわれや優れた点などを簡略に説明しています。説明板は場所に合わせていろいろな形をしていますが、代表的ものは高札型で、次いで標柱型、大型のものがあります。



標柱型説明板

金属製の説明板は昭和40年代の終わり頃から設置し、現在のものは、表面の日焼け防止処理により板面を保護しています。

古いものや文字が薄くなっているものは随時改修していますが、いたずら書きや傷つけられることもあります。文化財と同様に大切にしましょう。



高札型説明板と道標

観光案内所を ご活用下さい!



練馬駅の地下に観光案内所がオープンしました。

「ねりまの文化財」や「まち歩き観光まつぶ」、「練馬区の素敵な風景100選」、「ねりコレ」(お菓子や野菜、工芸品など練馬にちなんだ商品などを紹介)などの冊子を配布し、関連するホームページも充実してきています。

この案内所にあるパンフレットなどを活用して、新春の練馬の文化財めぐりを楽しんでみてはいかがでしょう。

問い合わせ先

観光係

郷土資料室特別展

「講」ってなあに？

「講」という言葉を聞いて、何を思い浮かべるでしょうか。富士講や庚申講などの「講」を思い浮かべる人は少ないのではないかと思います。しかし、区内を見渡してみると、寺社や路傍に残る石造物には「講中」の文字が刻まれ、また、富士塚など「講」に関連する文化財も残っていることから、かつて「講」が地域の生活に根付いていたことが窺えます。

現在でも、区内には少しずつ形を変えながら「講」の活動が続けられているところが比較的多くあります。例えば、初午の日には、稲荷に集まる人々の姿を見かけますし、富士山の山開きが行われる7月1日を中心に、区内の富士塚でも同様に「お山開き」が行われています。

今回の特別展では、江戸時代以降の練馬の「講」の足跡を辿り、「講」と人々の暮らしに関わる資料を展示します。郷土の歴史・民俗への知識を深めるきっかけとしたいだければ幸いです。是非おこしください。



武蔵御嶽講の参詣の様子

●会場

郷土資料室
石神井台1-16-31
Tel 3996-0563

●日時

1月26日(土)～3月11日(火)
※休室は月曜(祝日と重なる場合は翌日)、第4金曜日
場合は翌日)、第4金曜日

●学芸員による展示解説

2月2日(土)、3月2日(日)
両日ともに、午後0時50分から約30分、直接会場へ。

○特別展開連事業

A 講演会

演題 「関東地方の山岳信仰と講集団」
講師 西海賢二
(東京家政学院大学教授)

日時 3月2日(日) 午後2時～4時
場所 石神井図書館 視聴覚室

定員 50名(申込多数の場合、抽選)

B 江古田の富士塚の見学会

日時 3月4日(火) 午後1時30分から30分程度

場所 浅間神社(小竹町1-59)
定員 30名(申込多数の場合、抽選)

※特別展開連事業の申込

各事業1人1枚ずつの往復ハガキに、①A・Bの別、②住所、③氏名(ふりがな)、④電話番号を「記入の上、2月5日(火) 必着で、郷土資料室へ。電話申込不可」

詳細は区報1月21号を「ご覧ください」。

今回の特別展の一部として昨年2月4日・5日に取材した初午(稲荷講)と、8月1日に取材した中里富士講のお山開きについて紹介します。

◎初午とは

初午は、立春から最初の午の日で、稲荷の祭礼日です。稲荷は、農村では農業の神、江戸では福運・子授け・火防の神として信仰され、各地に稲荷神社や稲荷祠が建てられました。



屋敷稲荷の初午 (石神井台八丁目 本橋家)

現在も、区内各地には稲荷神社があり、個人で屋敷稲荷を祀るお宅もみられます。初午の日には、稲荷に赤飯と油揚げを供え、願い事を書いた絵馬とのぼりを飾ります。初午(稲荷講)は、かつて初午の前夜(宵宮)から始まるのが普通でした。今でも、熊野稲荷神社(桜台3-16)や西木村稲荷神社(平和台4-2)などでは、宵宮から地口行灯(ことわざや成句をもじった洒落が書かれた行灯)を飾るなど、盛大に初午(稲荷講)を行っています。子どもは、太鼓を叩いて氏子の家を廻って賽銭などをもらうこともありました。



地口行灯 [地口]狐の亀うり [元句]狐の嫁入り (熊野稲荷神社)

◎富士塚のお山開き

練馬区内には、国の重要文化財に指定されている江古田の富士塚をはじめとして、5基の富士塚が残っています。富士講が江戸後期以降に広まってきた中で、富士山をまねた富士塚も多く造られるようになりました。富士塚に参詣することで、さまざまな理由で富士登山ができなかった人々たちも富士山登山と同じ霊験が得られると信じられていました。

中里の富士塚は、毎年8月1日にお山開きが行われ、中里富士講の講中が集まってお山の清掃、植木の刈込みなどをを行っています。



中里の富士塚 (大泉町1-44)

ご存知ですか? 区内の天然記念物

〽国の指定文化財〽

練馬白山神社の大ケヤキ

練馬4-2 白山神社境内

拝殿前に2株あります。樹齢約900年と推定されています。永保3年(一〇八三)、源義家が後三年の役で奥州へ向かう際、この社に戦勝を祈願して苗木を奉納したと伝えられます。



階段上のものは、樹高14m、幹周り7.2mで、昭和15年(一九四〇)に指定され、階段下のものは、樹高19m、幹周り8mで、平成8年に追加指定されました。

幹の空洞化が進んでいるため、樹木医による定期的な診断や治療を行っています。昭和63年に区の文化財として登録されています。

〽区の指定文化財〽

練馬東小学校のフジ

春日町1-30

校庭北西隅にあり、根元付近の径が最大で1mを測ります。練馬東小学校設立の際に、地元関係者の尽力により記念樹として植えられました。



※見学は学校受付に申し出てください

井頭のヤナギ

東大泉7-34 大泉井頭公園

マルバヤナギで、2株あります。現在でも豊かな水量を保っている旧井頭池(白子川上流域)の湧き水付近に整備された公園の水辺に成育しています。上流のものは、高さ8.8m、幹周り1.5mで、下流のものは高さ6.2m、幹周り1.7mです。



〽区の登録文化財〽

内田家の屋敷林

早宮3-41

石神井川を南に望む高台にあります。屋敷を囲むケヤキを中心に、シラカシなどからなる林で、門前のケヤキは、高さ30m、幹周り4.5mの巨木です。屋敷林は防風と日除け、雑木林は農用林として活用されました。



※路上からのみ見学可

八の釜の湧き水

東大泉2-27

白子川右岸の湧水です。台地緩斜面裾部、標高32mの地点にあります。



八の釜憩いの森

カタクリ群落

大泉町1-6

白子川侵食谷北斜面の約3600㎡の範囲で、20万株が自生しているようです。毎年、3月下旬から4月上旬に開花します。



清水山憩いの森

土支田八幡宮の社叢

土支田4-28

200株以上のスギやヒノキを中心に、イチヨウ・アオキ・ヒサカキなどがあります。区内でも比較的広い社叢です。



開進第一小学校のクスノキ

早宮2-1

区内で3番目に大きいクスノキ、樹高約21m、幹周り約3mを測ります。大正4年に植樹され、昭和12年に現在の正門脇に移されました。



光伝寺のコウヤマキ

氷川台3-24

樹高14m、幹周り2.4mで、区内最大のコウヤマキです。

